TOCOMスクエア開設

商品取引所で初

東京工業品取引所は05年度を「広報元年」と位置づけ、中長期的な観点から積極的な広報戦略を展開する方針だが、その先駆けとして04年12月24日午前、中央区銀座8丁目4-23 クレグラン銀座ビル（1階）に、情報発信センターとして「TOCOM square（トコム スクエア）」を開設。日経ラジオ社のスタジオを併設したもので、商品取引所が独自の発信基地を設けたのは、東工取が初めて。東工取の南學政明理事長は「ここは重要な発信基地として関係者のご理解とご支援で無事オープンしました。東工取の上場商品や金融の情報を提供したい。また、ラジオ日経の生放送によるマーケットトレンドを通じて、新鮮な情報や今後の市況の分析、解説を行い、ゲストコメンテーターと懇談の場を設け、多くの方に愛されることを期待しています」と挨拶。オープン式典には関係者約40人が集まり、祝った。

TOCOMスクエア内部

大変革期迎え懇談

4団体共催の第23回記者懇親会

先物協会、日商協、全商連、補償基金協会の4団体は12月7日夕、東京・日本橋蛎殻町のロイヤルパークホテルで第23回記者懇親会を開いた。一般紙、業界紙から38社、約90人、各団体と取引所関係者約50人の合計約140人が出席、今年1年を振り返えるとともに、厳しい来年に思いをはせ、懇談した。

冒頭の挨拶で、今年の幹事団体、日商協の荒井史男会長が「商品先物業界は年初からの委託手数料完全自由化、5月からの改正商取法施行で、戦後最大の変革期になる。各社とも工夫していると思います。一部に過当競争への懸念があるが、それを乗り越え、業界が発展することを期待している」と挨拶した。

次いで全商連の南學政明会長が乾杯の音頭をとり、「出来高速報では6年連続の過去最高更新は望めなくなっている。新年は制度改革の第1年目の年。取引所、業界にとって大きく飛躍する年であってほしい」と語った。

中締めでは、当協会の佐藤陽紀副会長が「新先物時代の到来を乗り越えていきたい」と決意表明した。

話は尽きない

在京取引員忘年懇親会

400人参加

平成16年の在京商品取引員忘年懇親会が12月22日夕、東京・日本橋蛎殻町のロイヤルパークホテルで、関係者約400人を集めて行われた。世話人代表として多々良義成東穀協会会長が「商取法の改正、金融先物取引法の改正がありました。個人委託者が90％以上を占める商品先物業界に取って大変厳しいと心配しています。これらの改正にきちんと対応すれば確たる地位が出来ると思います。年末には横浜商取で、野菜先物取引が順調にスタートしました。また、過去2年間、東穀取で検討されてきたコメ上場検討委員会の研究が8月に発表され、コメ上場が打ち出されました。順調にいけば、平成17年半ばから秋にかけて上場されることを期待したい」と挨拶した。

中部、農産市場を廃止

中部商品取引所の農産物市場では小豆、輸入大豆などの取引を04年4月から中止していたが、輸入大豆の限月が1月まで残っていた。それが終わる1月末をもって同市場を閉鎖する。

横浜商取

世界初、野菜先物スタート

ヘッジ需要掘り起こせるか

主要野菜14品目の加重平均値を取引対象として現金決済する方式の世界初の野菜先物取引が20日、横浜商品取引所でスタートした。

鷲野宏理事長は、「当業者の関心が高く、大きく育てたい」と抱負を述べ、農水省の田辺義貴・商品取引監理官は、「新しい仕組みで意義深い。大いに利用されるようになってもらいたい」と期待を語った。横浜商取協会の加藤雅一会長（岡藤商事社長）は、「久しぶりの大型商品。日本経済に役立つように」と意欲を示した。

14品目は白菜、キャベツ、ねぎ、レタス、きゅうり、なす、トマト、ピーマン、だいこん、にんじん、ばれいしょ、たまねぎ、ごぼう、かぼちゃ。これらの東京都中央卸売市場と大阪市中央卸売市場の入荷数量・卸売価格を基に取引所が毎日の加重平均値を出す。呼び値は1キログラム当たり10銭刻みで、取引単位（1枚）は2トン。

初日には、2、3、4、5月の4限月でスタート、今年2月には6限月がそろう。初日の終値は2月限が165円、5月限が140円10銭と逆ザヤ。台風の影響による野菜の高値が次第に修正されると見込んでいる。出来高は1万9、762枚。

全国の卸売市場での野菜26品目の2003年の卸売数量は1、240万トン、金額にして2兆3、300億円。そのうち、加重平均対象14品目は数量で79％、金額で60％を占める。業務用、加工原料用の需要が伸びており、野菜先物取引の背後には大きなヘッジ需要が潜在している。取引のすそ野を広げつつ、これをどう掘り起こしていくかが課題になる。

鷲野理事長の挨拶

全国放送

「徹底解剖！黄金の常識」

高校の授業形式バラエティ

東工取先物市場振興協会と東京工業品取引所が毎年秋に提供しているテレビ特別番組（テレビ東京系列6局とBSジャパンによる全国放送）が2004年は12月5日（日）午後4時から同5時15分まで放送された。この特別番組提供は10年を超え、今年が11回目。

今回のタイトルは、「徹底解剖！黄金の常識」――知ってて得する輝きの真実――。高校の授業の形式をとったバラエティ番組とし、先生役に別所哲也、生徒役はコージー富田、モンキッキー、生稲晃子、山口もえの4人。

まず、焼失前の名古屋城に飾られていた金のしゃちほこの金を使ったミニサイズしゃちほこの由来、金箔をまぶし、金のへらでつくるお好み焼など名古屋にまつわる話題に始まり、五輪金メダル獲得をめぐる日本女子レスリング選手の奮闘、中国で大富豪にのし上がった体操金メダリストを紹介した。

さらに、これまで人類が掘り出した金の総量はオリンピックプール3杯分、金はどうして生まれるか、鹿児島の菱刈鉱山の金含有率は世界一、金保有量世界一は米国中央銀行、ジュエリー、装飾品、上海金取引所などをめぐる中国の金ブーム、世界最大の金貨はオーストリアのウィーン金貨ハーモニーと授業は進む。

ソ連のアフガン侵攻、イラク戦争などに関連して過去30年の「有事の金」の価格動向をみて、最後に河村幹夫・多摩大学教授が先物取引の仕組み、リスクヘッジなどについて解説した。

ミニサイズしゃちほこ

大納会を30日に繰延

東穀取、東工取、中部商取、関西商取は12月の理事会で従来の大納会日28日を2日間繰り延べて30日にすることを決め、業務規程の変更を主務省に申請した。

残る横浜商取と福岡商取は1月の理事会で決める。この繰り延べによって海外市場との価格連動性を持たせる。

事務局だより

明けましておめでとうございます。今年はいよいよ改正商品取引所法の施行の年です。

平成14年11月から開催された商品先物取引制度に関する主務省の研究会が今回の法改正の契機でしたが、法改正に向け、足掛け3年、関係者の方々が多大な尽力をされてきています。

本年5月の法施行に向け、会員各位におかれましては、これからの数カ月間が実務面での対応等で大変多忙になるかと存じますが、当協会事務局としましても、会員の皆さまに対して最大限のサポートを続けてまいります。

本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。